

Ⅱ 委託研究課題概要（HP 公表用）

＜研究概要様式＞

【2026年度応募 連携研究スキームによる研究】

課題番号（e-Rad 課題 ID）：26254568

研究テーマ：「農村地域における多様な主体の参画促進に関する研究」
委託研究課題名：「地域資源を活用した農泊関連事業における外部アクター参画と地域運営の実効性評価に関する研究」

- 1 研究実施期間（西暦）：2026年度～2027年度（2年間）
- 2 予算規模：10,000,000円（2026年度）
- 3 代表機関・役職・研究開発責任者：東京大学 教授 香坂 玲

4 研究の目的・達成目標

【目的】本研究は、農泊を通じて地域資源を活用し、農村が抱える高齢化・人口減少・生活基盤の弱体化といった課題をどのように解決できるかを明らかにし、持続可能な地域運営モデルを提示することを目的とする。具体的には、農泊を切り口に、都市住民、関係人口、移住者、異業種企業、DMO 等の外部アクター参画が地域運営の持続性に及ぼす効果を比較分析する。あわせて、農泊推進型の取組と地域課題解決を両立させる制度横断的な接続条件を整理し、比較可能な評価指標及び KPI を提示する。同時に農林水産政策研究所による「多様な地域住民の参画による地域課題解決」研究と連携し、主に政策研が担うモデル自治体での現地データ収集、地域内部の活動分析、現場実証と接続し、最終的に持続可能な地域運営モデルを提示する。

【目標】①農泊関連事業における外部アクター参画の類型と効果を整理する、②農泊、農村 RMO などの地域運営主体、関連制度の接続条件を比較分析する、③農村 RMO を核とした持続可能な地域運営モデルを類型化する、④政策研の現地分析を活用して評価指標及び KPI を提示し、政策的含意を示す。

5 研究の内容および実施体制

① 比較可能な分析枠組みと指標設計

政策研が対象地域で把握する現地データ、自治体資料、事業実施主体の公表資料、既存統計等を活用し、農泊関連事業、地域運営組織、農村 RMO、外部アクター参画を比較可能な形で整理する分析枠組みと指標を構築する。（神戸大学大学院人間発達環境学研究科、東京大学大学院農学生命科学研究科）

② 地域運営主体の把握と外部アクター参画の比較分析

都市住民、関係人口、移住者、異業種企業、DMO 等の外部アクターが、農泊関連事業や地域運営にどのように関与し、所得向上、雇用創出、地域課題解決、地域資源活用に結び付くかを比較分析する。（東京大学大学院農学生命科学研究科、宮崎大学地域資源創成学部）

③ 効果的な農泊事業施策と KPI の提示

農泊推進型の取組、農村 RMO、関連する制度・登録枠組みの接続条件を整理し、効果的な農泊事業施策及び実装可能性の高い KPI を提示し、政策提言をする。（宮崎大学地域資源創成学部、神戸大学大学院人間発達環境学研究科、東京大学大学院農学生命科学研究科）

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

本研究は、政策研究の現場実証視点とマクロ的な知見・成果を基盤としつつ、外部アクター参画の影響分析、地域間比較、制度横断分析、KPI の設計に取組む。地域内部の実証を担う政策研究と地域外部との接続条件の分析を行なう本研究は補完関係にあり、農泊を通じた地域課題解決の方策の具体化、農村 RMO の普及に向けた実務的示唆、及び政策立案への相乗効果が期待される。

＜研究概要図＞

委託研究課題名

地域資源を活用した農泊関連事業における外部アクター参画と地域運営の実効性評価に関する研究

地域資源を活用した農泊関連事業における 外部アクター参画と地域運営の実効性評価に関する研究

研究目的

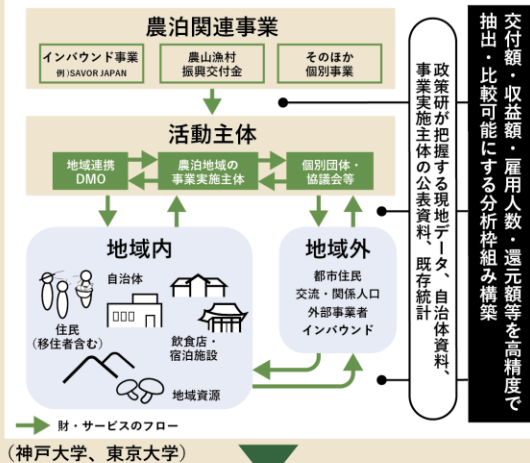
農泊を通じて地域資源を活用し、農村が抱える高齢化・人口減少・生活基盤の弱体化といった課題をどのように解決できるかを明らかにする。経済効果に加え、住民の生活支援や環境保全への波及効果、制度上の利点と課題を分析し、持続可能な地域運営モデルを提示する。

研究内容

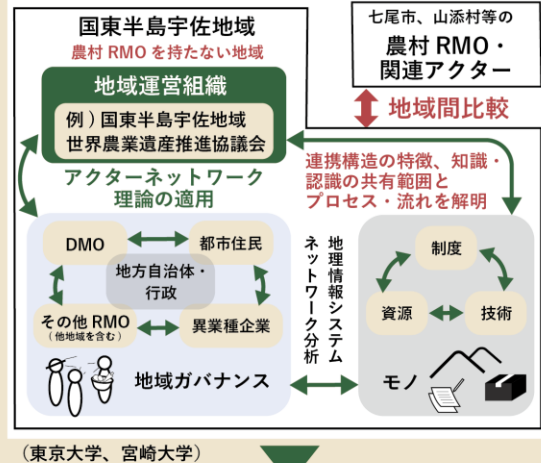
研究の目標

- ① 農泊事業の地域内経済循環効果および経済波及効果の定量的推計
- ② 国東半島宇佐地域におけるアクターネットワークの可視化と連携密度の指標化
- ③ 持続可能な地域運営モデルのための KPI 提案と制度利用案作成

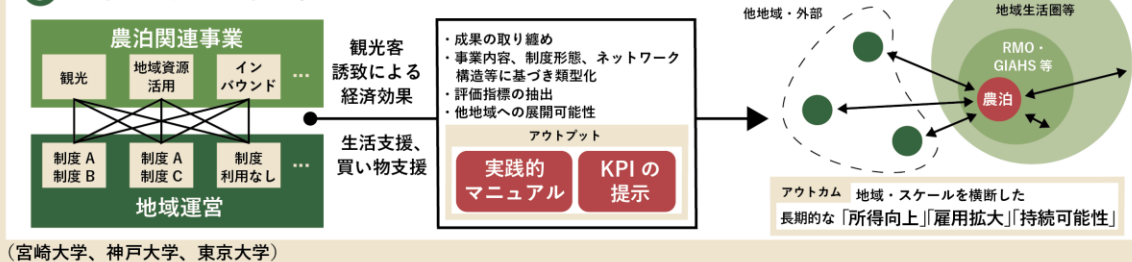
① 比較可能な分析枠組みと指標設計



② 地域運営主体の把握と外部アクター参画の比較分析



③ 効果的な農泊事業施策と KPI の提示



研究連携

政策研究との連携の意義、期待される波及効果

政策研連携研究課題

具体的なモデル地域を対象に、「多様な地域住民の参画」というテーマのもと、農村 RMO を対象に多角的な分析と課題の析出

「ミクロ的・実証的」

本研究

外部アクター参画の影響分析、地域間比較、制度横断分析、KPI の設計

地域間比較による
制度上の利点・課題の析出

「メソ・スケール」

政策研の過去研究

全国的大規模アンケート調査や国際比較 (イタリア、フランス) を通して、農泊の全体的な傾向や課題を分析

「マクロ的・政策的」

地域内部の実証を担う政策研究と地域外部との接続条件の分析を行なう本研究は補完関係

波及効果

農泊を通じた地域課題解決策の具体化、農村 RMO の普及に向けた実務的示唆、及び政策立案への相乗効果が期待される